

審判講習会報告書

| | | | |
|---|--------------------------------|----------|----------------|
| 中学校 | 連盟 | 委員長(責任者) | 長谷川 隆司 |
| 日 時 | 2014年7月12日(土) 12時30分～17時00分 | | |
| 場 所 | 昌平高校 | | |
| 講師名 | 竹澤 友美 氏 眞榮喜 工 氏 | | |
| 講習会名 | 中体連 日本公認対象 審判講習会 | | |
| 対 象 者 | 日本公認 20 人 | 県公認 0 人 | 未公認 0 人 計 20 人 |
| 開閉講式 | 開講式 | 有 無 | 閉講式 有 無 |
| 報告事項(講義の内容、講習会形式等) | | | |
| <p>講習会では、竹澤友美氏、眞榮喜工氏から、レクチャーをいただいた。今回の講習会では、高校生の試合を吹くので、体の使い方や体の強さ、勝負時のスピード等の個人の違いや、コートバランスの違いも出てくる。中学生との違いを理解して挑んでほしい。カテゴリーの違いは、たくさんの試合を経験し、慣れることで解消していくもの。</p> <p>カテゴリーが上がるにつれ、コート上でバスケットをするプレイヤーが増えてくる。1on1、2on2、3on3、逆サイドの合わせのプレイなど。</p> <p>審判は二人の協力で行うこと。一人はボールだけではいけない。ボールとその周辺も視野に入れること。もう一人は、それ以外を見てボクシングインをすること。</p> <p>高校生はボールが動いて人が動くより、人が動いてボールが動くことが多くなる。よって、オフボールのスペースの捉え方が大切である。</p> <p>スクリーンプレイの理解をすることが大切である。たくさんスクリーンを使用し、種類も豊富であるスクリーンの始まりの捉え方や位置関係、ムービング等、そのイメージを持っていないとジャッジは難しい。</p> <p>講習会なので、グレーゾーンを極力狭くし、躊躇せず、笛で表現してほしい。</p> <p>吹かなかったのか、吹けなかったのかを明確にすることが大切である。ハッキリと判断できる準備をする。1つのプレイを前段階から捉え、どちらが悪いのかを判断する準備が必要である。しかけたプレイヤーが吹かれず、やりかえしたプレイヤーがファールをとられることはミスジャッジである。</p> <p>審判は二人の協力により、全てを把握できるので、4原則はツールとして大切にしてほしい。</p> <p>日本公認とは、日本のどの試合も吹けるという意味もある。欲を持って取り組んでほしい。全中、関東等を吹いて見たいと思っているだろうか。ぜひ、高い目標を持ってほしい。それによって、普段の活動が変わってくると思う。どう過ごすのかを考えてほしい。</p> <p>自分に限界を決めず、貪欲に頑張してほしい。</p> | | | |